

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第 9 号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類越冬世代成虫のその後の発生推移および新世代の発生予測について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

記

1. 発生状況：

1) チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数は、6月～7月には各地域とも平年並もしくは平年より少なく推移したが、合志市では8月1半旬から平年より多くなった。一方、フェロモントラップの誘殺数は、合志市では6月上旬に平年より多かつたものの、その後は各地域とも低密度で推移した（図1～3、表1）。

ツヤアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップの誘殺数もチャバネアオカメムシと同様であったが、予察灯誘殺数は各地域とも7月6半旬から増加し始め、合志市では平年よりも多くなった（表1）。

2) チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの予察灯による7月第1～8月第1半旬の累積誘殺数は、合志市が平年比やや多、宇城市が平年比やや少～並、天草市が平年比少であった（表1）。

3) 7月31日～8月1日に行ったヒノキ球果における果樹カメムシ類の口針鞘数調査では、県内9地点の平均が1果あたり2.7本（平年2.6本）と平年並であったが、本年は地域により偏りが大きく、口針鞘数が多かつた宇城市三角、宇城市松橋および合志市では、新世代成虫の球果からの離脱は8月22日～9月6日頃と予想された。また、口針鞘数が少かつた熊本市河内、天草市および苓北町では、9月20日～24日以降と予想された（表2）。

4) ビーチング調査におけるヒノキ球果に寄生するカメムシ類の成幼虫数は、7月下旬に急増し、成虫の割合が増加したことから、新世代成虫が発生し始めたと思われる（図4）。

5) 普及指導員および病虫害防除員への聞き取りによると、現時点では果樹での被害は認められていない。

2. 防除対象作物：果樹類（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ等）

3. 防除上注意すべき事項：

1) 果樹カメムシ類は主に山林のスギ・ヒノキ球果を餌として増殖する。球果の口針鞘数が25本／果を超えると餌の状態が悪くなり、球果から離脱して周辺の果樹園へ飛来する。

2) 現時点での被害は認められていないが、カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在する。特に本年は地域によって球果からのカメムシ類の離脱日が異なると考えられるため、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。なお、カメムシ類は夜になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。

3) 被害が認められた場合は直ちに防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

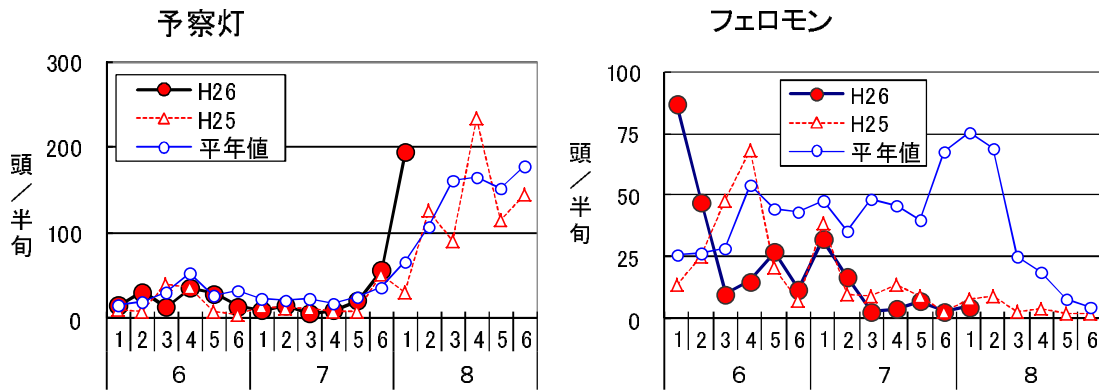


図1 合志市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：農研センター）

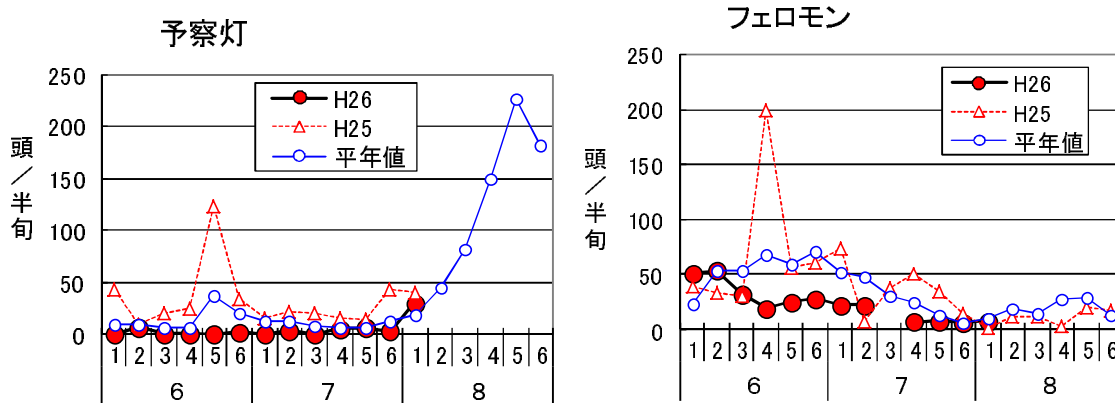


図2 宇城市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：果樹研究所）

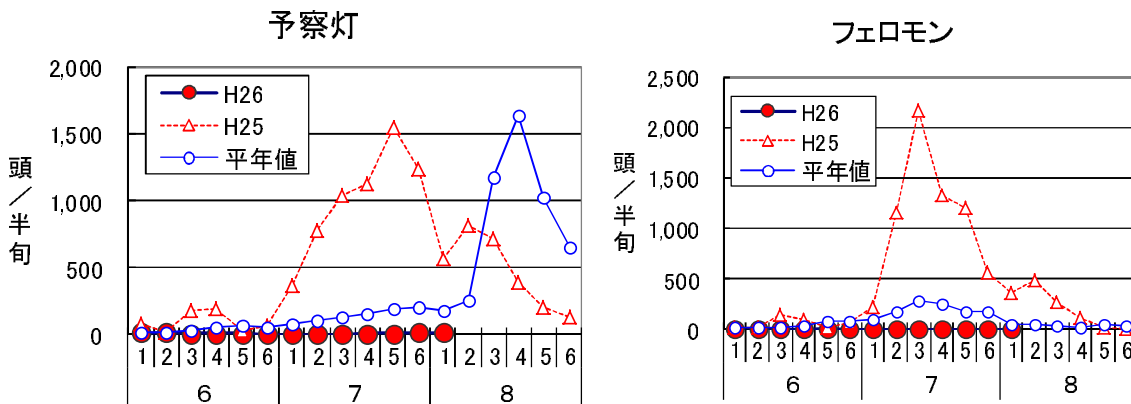


図3 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：天草農業研究所）

表1 各地域におけるカメムシ類の誘殺状況(7月第1～8月第1半旬合計)

地域名	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	予察灯	フェロモントラップ	予察灯	フェロモントラップ
合志	313 (214)	71 (360)	329 (91)	0 (1)
宇城	48 (77)	73 (184)	70 (77)	8 (3)
天草	46 (1,018)	3 (1,226)	338 (522)	0 (17)

単位：頭、()は平年値

表2 ヒノキ球果からの離脱予想日(福岡県が開発した予測式を使用)

地点	1果当たり口針翰数(X)	離脱までの日数(Y)	離脱予想日
合志	9.13	21	8月 22日
松橋	～	～	～
三角	4.87	37	9月 6日
河内	1.07	50	9月 20日
天草市	～	～	～
苓北	0	54	9月 24日

計算式： $Y = 53.93 - 3.559X$

Y:調査日(7月下旬)から離脱日までの日数

X:ヒノキ球果の口針翰数

(調査日:7月 31日～8月1日)

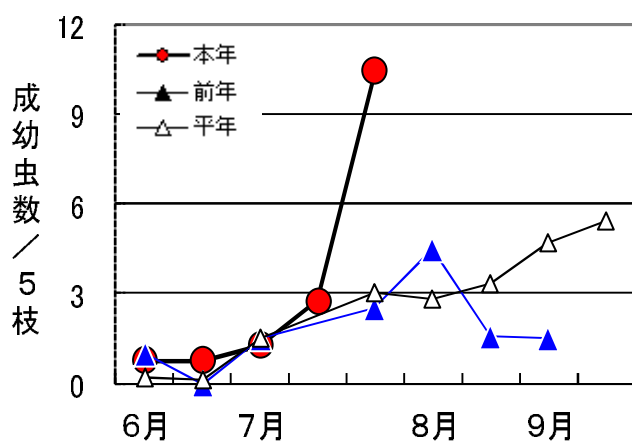


図4 ヒノキ球果に寄生する成幼虫数の推移(ビーティング調査:4地点の平均)

熊本県病害虫防除所
(生産環境研究所)
担当:清永
TEL 096-248-6490